

泉大津市文化財調査報告18

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報7

1989・3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査報告18

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報7

1989・3

泉大津市教育委員会

例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査記録である。
2. 本調査は、泉大津市が国庫補助事業及び、大阪府補助事業（総額2,000,000円、国補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として、計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者 泉大津市教育委員会教育長 藤原勇三
調査担当者 泉大津市教育委員会社会教育課 坂口昌男
同課嘱託 内藤俊哉（S63.7まで）

調査員 辻川陽一
調査補助員 小原央子・辻川恵美・辻 知子
事務局 泉大津市教育委員会社会教育課
4. 本事業は、昭和63年度事業として、昭和63年6月1日に着手し、平成元年3月31日に完了した。
5. 本書の作成は、坂口・辻川陽一・小原・辻川恵美が分担して行った。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査の状況	1
第2章 地理・歴史的環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	8
第3章 発掘調査報告	11
第1節 池上・曾根遺跡	11
第2節 豊中遺跡	14
第3節 虫取遺跡	18
第4節 大園遺跡	21
第5節 板原遺跡	23
第6節 池浦遺跡	26
第7節 穴師遺跡	28
第8節 七ノ坪遺跡	31
第9節 東雲遺跡	35
参 考 文 献	38
插 図	
第1図 遺跡分布図	7
第2図 池上・曾根遺跡調査地点図	11
第3図 池上・曾根遺跡第1地点掘削位置図	12
第4図 池上・曾根遺跡第1地点調査坑断面図	13
第5図 池上・曾根遺跡第2地点掘削位置図	13
第6図 池上・曾根遺跡第2地点調査坑断面図	14
第7図 豊中遺跡調査地点図	15
第8図 豊中遺跡第1地点掘削位置図	16
第9図 豊中遺跡第1地点調査坑断面図	17
第10図 豊中遺跡第2地点掘削位置図	17

第11図	豊中遺跡第2地点調査地断面図	18
第12図	虫取遺跡調査地点図	19
第13図	虫取遺跡掘削位置図	20
第14図	虫取遺跡調査地断面図	20
第15図	大岡遺跡調査地点図	21
第16図	大岡遺跡掘削位置図	22
第17図	大岡遺跡調査地断面図	23
第18図	板原遺跡調査地点図	24
第19図	板原遺跡掘削位置図	25
第20図	板原遺跡調査地断面図	26
第21図	池浦遺跡調査地点図	26
第22図	池浦遺跡掘削位置図	27
第23図	池浦遺跡調査地断面図	28
第24図	穴師遺跡調査地点図	29
第25図	穴師遺跡掘削位置図	30
第26図	穴師遺跡調査地南壁断面図	31
第27図	穴師遺跡調査地西壁断面図	31
第28図	七ノ坪遺跡調査地点図	32
第29図	七ノ坪遺跡掘削位置図	33
第30図	七ノ坪遺跡遺構図	34
第31図	東雲遺跡調査地点図	35
第32図	東雲遺跡掘削位置図	36
第33図	東雲遺跡調査地断面図	37

插 表

表1	遺跡別掘出件数	1
表2	遺跡別調査件数	2
表3	昭和63年度調査一覧表	2
表4	昭和62年度調査一覧表(追加分)	5

図 版

- 1 池上・曾根遺跡第1地点調査坑断面・第2地点調査坑断面
- 2 豊中遺跡第1地点調査坑・第1地点調査坑断面
- 3 豊中遺跡第2地点調査坑・第2地点調査坑断面
- 4 虫取遺跡調査坑・調査坑断面
- 5 板原遺跡調査坑・調査坑断面
- 6 池浦遺跡調査坑・調査坑断面
- 7 穴師遺跡調査坑・調査坑南壁
- 8 大園遺跡調査坑・七ノ坪遺跡調査全景
- 9 七ノ坪遺跡遺構・遺物
- 10 東雲遺跡調査坑・東雲遺跡調査坑断面

第1章 埋蔵文化財調査の状況

昭和63年度における埋蔵文化財発掘届出件数及び調査件数は、表1、2のとおりである。埋蔵文化財発掘届出件数は、平成元年2月28日現在で161件と昨年度（124件）を大きくうまわっている。この内訳を見ると、個人住宅建設は昨年度より減少している。市の人口も昨年度より約1,000名程減っており、大規模な宅地造成やマンションができない限り、ほぼ横バイの状態が続くであろう。しかし、投資対象とみられる2～3階建ての共同住宅建設は、昨年同様にみられる。又、大きく増加したのが、ガス・水道工事で届出件数の過半数（55%）を占めている。工場・倉庫の建設が昨年度より増加していて、景気の上昇をうかがわせる。調査内容をみると、掘削深度の浅い住宅建設や掘削面積の狭小なガス・水道工事が大半を占める為、本年度も立会調査がほとんどであった。掘削深度の深い基礎については、予備調査を実施したが、いずれも遺構等が検出されなかった為、本調査までには至らなかった。電気・電話の電柱建設による工事届出は、本年度においてみられたが、全て慎重工事実施として取り扱った。

表1 遺跡別届出件数

(昭和63年4月1日～平成元年2月28日)

遺跡名	件数	内訳					
		個人住宅	ガス・水道	電話・電気	工場・倉庫	店舗・事務所	共同住宅
池上・曾根遺跡	25	5	14	2	2	1	1
豊中遺跡	33	1	19	8	2	1	2
虫取遺跡	25	6	8	4	5	2	
大園遺跡	7	2	3			2	
板原遺跡	13	4	5		2	2	
池浦遺跡	19	5	9	3	1	1	
穴師遺跡	2		1				1
七ノ坪遺跡	4		3	1			
東雲遺跡	20	3	15	1			1
薬師寺跡	1		1				
森遺跡	2		2				
穴田遺跡	5		4				1
助松遺跡	3		3				
池園遺跡	1						1
真鍋城跡	1		1				
計	161	26 (16%)	88 (55%)	19 (12%)	12 (7%)	9 (6%)	7 (4%)

本年度の届出件数における調査件数の比率は約37%と昨年度(52%)を大きく下回っている。何らかの対策を講じる必要がある。

本年度調査の実施日・地番・遺跡名・概略等は表3に示す。但し本書発行期日の都合上、平成元年2月28日までである。なお前年度報告書未記載の分を表4で報告する。

表2 遺跡別調査件数

(昭和63年4月1日～平成元年2月28日)

遺跡名	件数	内訳	
		立会	発掘
池上・菅根遺跡	7	5	2
豊中遺跡	15	13	2
虫取遺跡	5	4	1
大園遺跡	4	3	1
板原遺跡	4	3	1
池浦遺跡	9	8	1
穴師遺跡	2	1	1
七ノ坪遺跡	1	1	
東雲遺跡	10	9	1
穴田遺跡	2	2	
計	59	49	10

表3 昭和63年度調査一覧表

(昭和63年4月1日～平成元年2月28日)

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
4・1	北豊中町1丁目 495-1 496-1	七ノ坪遺跡	立会調査	水道管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・5	我孫子192	虫取遺跡	立会調査	水道管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・6	東豊中町1丁目89 -1 -2	豊中遺跡	発掘調査	店舗付き共同住宅建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器出土。(8803)
4・16	豊中685	穴師遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・25	東雲町76 -1 -3	東雲遺跡	発掘調査	事務所建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦器出土。(8804)
4・25	東豊中町2丁目963-2	豊中遺跡	立会調査	住宅組設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められず。
5・17	旭町23-65	東雲遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められず。
5・18	下条町247-8	池浦遺跡	立会調査	水道管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・19	東豊中町1丁目89 -1 -2	豊中遺跡	立会調査	水道管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・23	下条町614-39	東雲遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
5・25	森町1丁目94-1	池上・曾根遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
6・6	東豊中町1丁目968-1	豊中遺跡	立会調査	共同住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
6・15	尾井千原 133-11 137-17	大園遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められず。
6・16	下条町6-8	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
6・20	下条町614-50-68	東雲遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・28	東雲町76 -1 -3	東雲遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・29	東豊中町1丁目968-1	豊中遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・30	旭町23-65	東雲遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・4	東雲町76-1	東雲遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・11	我孫子203-11 虫取29-17	虫取遺跡	立会調査	倉庫付住宅建設による掘削で、基礎掘削は西側部分で一部包含層上面にかかり、瓦器・土師器の細片が散見。
7・14	我孫子69	穴田遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・14	東豊中町2丁目5-33	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・15	東豊中町1丁目4-14	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・18	綾井59-2	大園遺跡	発掘調査	店舗付事務所建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦器出土。(8805)
8・8	北豊中町2丁目10-22	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
8・19	千原町2丁目102-18	池上・曾根遺跡	発掘調査	店舗付事務所建設に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8806)
9・12	下条町614-39	東雲遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・26	下条町6-8	池浦遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・27	池浦町4丁目217-5	池浦遺跡	発掘調査	事務所付き住宅建設工事による先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8807)

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
10・5	東宮町89-1	東雲遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められず。
10・7	北豊中町2丁目380-3	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
10・12	204-2 穴田 205-2	板原遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められず。
10・20	我孫子210-4	虫取遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・21	我孫子54-1	穴田遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・1	東豊中町1丁目98-1	豊中遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・9	111-1、-7、 池園町 -8の一部 407-5、-6	池上・曾根遺跡	発掘調査	共同住宅建設に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器・瓦器出土。(8808)
11・12	東豊中町1丁目968-1	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・15	204-2 穴田 205-2	板原遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・18	下条町614-84	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
11・19	下条町614-15	池浦遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
11・29 12・6	48-1 東豊中町1丁目 51-2	豊中遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・15	板原259-3	人園遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・20	北豊中町3丁目1	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
1・17	1132 板原 1133	板原遺跡	発掘調査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦器出土。(8901)
1・24	穴田76-6	板原遺跡	立会調査	事務所建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められず。
1・24	宇多92-2	虫取遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・1	曾根町1丁目119-11	池上・曾根遺跡	立会調査	グレージ舗設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
2・4	千原町2丁目13-36	池上・曾根遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

月 日	調査地番	遺跡名	調査内容	備 考 (調査番号)
2・6 1 2・14	池浦町5丁目 447 448-1	穴師遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は検出されず。(AN-1)
2・7	綾井 19-2 20-1	大岡遺跡	立会調査	事務所・倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・7	東豊中町1丁目9-11	豊中遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・8	宇多1051-4	虫取遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8902)
2・14	千原町2丁目137-1	池上・曾根遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められず。
2・17	下条町3-6	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・17	下条町614-84	池浦遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・18	千原町2丁目13	池上・曾根遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
2・20	東豊中町2丁目962 -1 -2 -11 -12	豊中遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(8903)
2・21	東雲町9-63	東雲遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

表4 昭和62年度調査一覧表(追加分)

(昭和63年3月1日～3月31日)

月 日	調査地番	遺跡名	調査内容	備 考 (調査番号)
3・2	板原251-1	虫取遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・3	下条町247-1	池浦遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・5	東雲町 65-1 66-1	東雲遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・10	豊中699-3	穴師遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・19	森町2丁目215-1	池上・曾根遺跡	立会調査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

第2章 地理・歴史的環境

第1節 地理的環境

大阪府泉大津市は、大阪平野南部（泉州地域）の海岸部に位置する。市の西側は大阪湾に面し、北側は高石市、東側は和泉市、南側は大津川を挟んで泉北部忠岡町と接している。そして、低位段丘、海岸砂礫堆及び後背低地の上に立地し、山間部を有しない。市の面積は11.96km²、人口は68,627人（平成元年3月1日現在）と小規模な存在であるが、昭和17年には、府下で7番目に市制が施行され、早くから開けた地域でもある。

市を南北に横切って、私鉄南海電鉄本線とJR阪和線が約2km離れてほぼ平行に走り、大阪と和歌山を結んでいる。南海線では北側より、北助松・松之浜・泉大津の3駅があり、急行の停車する泉大津駅は、難波駅より所用時間約20分と近距離にある。

この鉄道と平行して、市内西部の海岸沿いを、府道堺阪南線と大阪臨海線が、又、東部を国道26号線（旧第2阪和国道）の道路が延びている。さらに市内の東西を結ぶ道路として、府道松之浜曾根線・松原泉大津線・泉大津粉河線・市道泉大津中央線があり、道路網は縦横にめぐっている。泉大津市の市街地は、南海電鉄本線と府道堺阪南線に沿って、明治以降、商工業用建物と住宅とで形成されてきた。市の東部は、水田地帯が広がり、農村集落がみられたが、昭和45年に大阪で開催された日本万国博覧会を契機に、商業都市大阪のベッドタウンとして泉州地域が注目され、宅地開発の波が押し寄せた。更に、第2阪和国道の建設と、それに伴う土地区画整理事業が実施され、市街地化が進行している。こうして市域全体が市街化区域となり、市内に20数個あった溜池も、その大半が埋め立てられ、住宅・団地・工場・公園・学校・公民館などの用地に転用されている。

この地域の地場産業の一つに、毛布・ニットを中心とする織物工業があり、特に毛布の生産高は全国の96%を占めている。又、近年、海岸側が堺・泉北臨海工業地帯として埋め立てられ、工場や倉庫が建ち並び、九州小倉と結ぶカーフェリーが発着するなど、港湾の都市としても発展しつつある。

さらには、泉州沖の関西国際空港建設に伴って、空港貨物基地誘致、産業廃棄物処理のフェニックス計画や、泉大津駅東地区市街地再開発事業などで新たな発展を目指している。



第1圖 遺跡分布圖

- | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|------------|
| 1. 大園遺跡 | 2. 森遺跡 | 3. 牛滝塚 | 4. 助松遺跡 | 5. 池上・曾根遺跡 |
| 6. 豊中遺跡 | 7. 七ノ坪遺跡 | 8. 穴師遺跡 | 9. 池浦遺跡 | 10. 東雲遺跡 |
| 11. 栗御寺跡 | 12. 穴田遺跡 | 13. 板原遺跡 | 14. 虫取遺跡 | 15. 大福寺跡 |

第2節 歴史的環境

泉大津市が所在する泉州地域は、大阪平野の南部に属し、気候は温暖であったため古くから生活の場・生産の場として開けていた。それは、市内各所に所在する遺跡の数からも首肯される。現在、市内には、大園、豊中、板原、池上・曾根、池浦、虫取、東雲、七ノ坪、穴師、穴田といった集落遺跡や、穴師薬師寺、大福寺などの寺院跡、又、考古学的に確認されていないが、千原城、刈田城、真鍋城、城の山等の城址が先人の足跡として残されている。これらの市内の遺跡を中心に、周辺の遺跡にも言及しながら、この地域の歴史的環境の概略を以下に述べていく。

—旧石器時代—

泉大津市内では、現在のところ旧石器時代に属する遺物は発見されていない。泉大津市・和泉市・高石市の3市にまたがる大園遺跡の段丘上より、後期旧石器時代のナイフ形石器と、旧石器終末期より縄文時代草創期・早期の有舌尖頭器が出土している^①。又、隣接する和泉市の大床遺跡からは、サヌカイト製のナイフをはじめ、石核・剥片約30個が検出された^②。和泉市伯太北遺跡・和気遺跡^③、柳山野々井遺跡・百舌鳥本町遺跡、岸和田市西山遺跡・琴山遺跡・葛城山頂遺跡・海岸寺山遺跡等で、旧石器時代に属すると思われる石器や剥片の出土がある。以上の遺跡は、段丘上や丘陵上に立地するという特徴をもっており、人々の行動の範囲を示している。

—縄文時代—

泉大津市においては、現在のところ縄文時代の明確な遺構は検出されていないが、板原遺跡では、後期の中津式を伴う自然流路や福田KⅡ式の遺構面、晩期の溝状遺構やピット等が報告されている^④。又、豊中遺跡でも埋積谷の旧河道内より中期末の上器片が発見されるなど^⑤、縄文人の存在を窺わせる。虫取遺跡では、晩期に属する土器が、弥生時代前期中頃の土器と共伴して出土し^⑥、縄文文化から弥生文化への過渡期の様子を示す好資料を与えてくれた。

—弥生時代—

泉大津市池浦遺跡は、市内で最も古い弥生時代の遺跡の一つで、前期中段階に形成された集落であり、低位段丘上に位置し、居住区は人工によるV字溝で限定されていたと思われる。この集

落は、短期間のうちにその生命を失ったようで、中期以降の土器は発見されていない。虫取遺跡も人工の、V字溝が検出され、第1様式新段階から第2様式の土器が、晩期の縄文土器を伴って大量に放棄されていた。^⑦和泉市池上町から泉大津市曾根町にかけての池上・曾根遺跡は、弥生時代の全期間を通じて、集落の生成・発展過程を知らしめる遺跡である。それは、前期に集落が形成され、中期にはその周囲を環濠が圍繞し、後期になると分散の傾向を示し、やがて古墳時代の集落へと移行する様子が発掘調査で明らかにされた。又、出土品は土器・石器・木器等膨大な量で他地域の人々との交流を示すものもある。以上の重要性から昭和51年に史跡指定がなされた。この時代の水田は、七ノ坪遺跡によって、畦畔の規模や取水方法等が知られる。他に遺跡としての実態は不明であるが、中期の壺棺が出土した穴師小学校校庭遺跡^⑧や、有銅銅剣を出土した古池遺跡^⑨(昭和61年度より豊中遺跡に含まれる)、砂丘遺跡かと思われる助松遺跡などがある。

—古墳時代—

泉大津市においては現在、古墳は存在しないが、古い地形図によると塚らしいものが見られ、かつては存在していた可能性もある。又、東雲遺跡からは埴輪片が出土しており、古墳もしくは祭祀遺跡との関連が考えられる。

集落遺跡は、昭和50年代に平野部で行なわれた道路建設に先立つ調査で、急激に発見例が増加した遺跡である。泉大津市における遺跡も例外ではない。古墳時代初期に属するものとして、豊中遺跡・七ノ坪遺跡・東雲遺跡があり、竪穴住居で集落は構成されている。七ノ坪遺跡は、この住居と共に、弥生時代からの伝統的墓形態である方形周溝墓や土塚墓^⑩も発見されており、高塚墳墓の被葬者と階層的差異によるものか、あるいは文化の相違に由来するものなのか問題となることである。この外、水田跡も検出され集落の一つのまとまりを示している。又、遺物散布地として、板原遺跡・虫取遺跡・助松遺跡・穴師遺跡などがある。

—飛鳥・白鳳・奈良・平安時代—

豊中遺跡から、平安時代後半に属する方形井戸が1基検出され、井戸内には「田井」「田井殿」と高台部内側あるいは体部外面に墨書された内面黒色土器や、灰軸陶器・土鍋・土器器杯が埋められ、井戸の機能は失なわれていた。^⑪

白鳳時代創建とされる泉穴師神社、その神宮寺として栄え、崇敬を集めた穴師薬師寺の跡や豊中遺跡からは、平安時代末以降の瓦が出土している。穴師薬師寺は、宝亀年中に大津浦に流れつ

いた木像の薬師如来を、穴師村に草堂を建てて安置したのに始まり、平安時代の中頃に大規模となり、代々の天皇より輪旨院宣か下された寺院である。基壇が発掘され、「穴師堂」銘瓦や宋銭が出土している。豊中遺跡内には「大福寺」の小字名が残り、これは江戸時代まで存続した寺院である。板原遺跡からは平安時代の掘立柱建物が検出されている。遺物散布地として、穴師遺跡や虫取遺跡、大岡遺跡があげられる。

一鎌倉時代・室町時代一

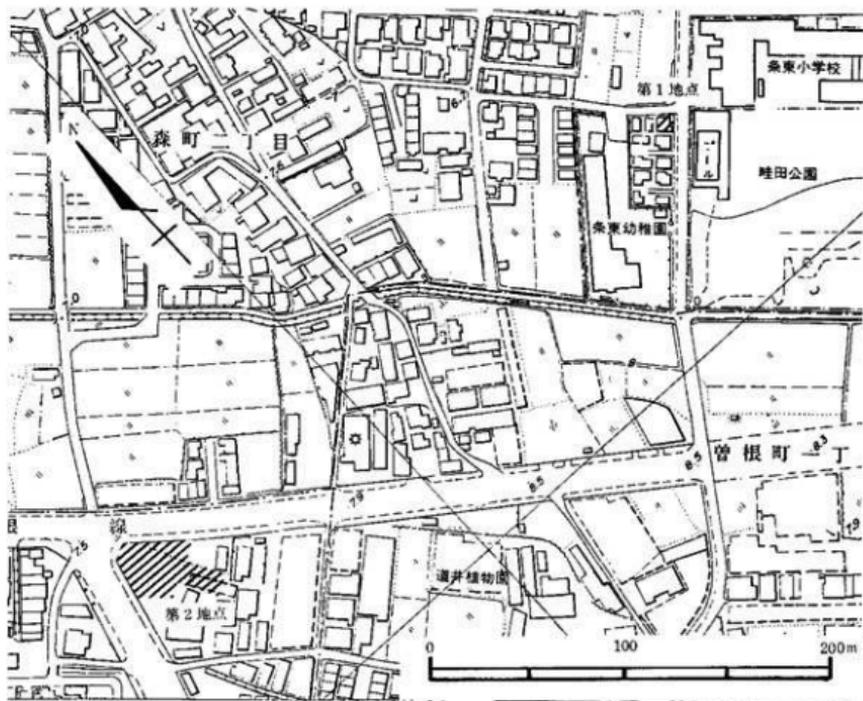
泉大津市内における中世の遺跡として、まず東雲遺跡があげられる。この遺跡は平安時代に始まり、鎌倉時代初期に至る掘立柱建物が構成される集落遺跡である。古池遺跡から、鎌倉時代の倉庫等の掘立柱建物^⑫、板原遺跡からも同時代の掘立柱建物7棟が、又、七ノ坪遺跡からも小溝群とピットが発見されている。豊中遺跡においては、土釜（羽釜）や曲物を井筒とした井戸、河原石組の井戸^⑬などから、瓦器碗、瓦質羽釜、瓦質練鉢、瓦、土師質小皿などの遺物も多数出土している。しかし、建物跡となると、特に鎌倉時代後半から室町時代にかけては、今のところ1例も確認されていない。その理由は、地面の剛平によるものなのか、建物の基礎構造が痕跡を残さないものなのかのいづれかと思われるが、断言はできない。穴田遺跡は、土釜を積み上げた井戸の発見によって昭和31年に周知された遺跡^⑭であるが、その実態は不明である。遺物散布地として、虫取遺跡・穴師遺跡・池上・曾根遺跡などがある。

第3章 発掘調査報告

第1節 池上・曾根遺跡

I 調査に至る経過

池上・曾根遺跡は、和泉市池上町に於て、水田やその土を使用した土塚に、石器や土器片が見られることで、古く明治時代より有識者には知られていた。又、戦後市営住宅の建設や府営水道の水道管埋設工事、光明池水路改修などの工事により、広範囲にわたる弥生時代の集落跡であることが広く知られるようになった^⑧。しかしいずれも立会による緊急調査であって、本格的な発掘調査が実施されたのは、昭和44年～46年にかけての第2版和国道（現国道26号線）建設に先立っての調査からである。その結果は、かねて考えられていた弥生集落の定説よりも、規模・内容と



第2図 池上・曾根遺跡調査地点図

もに大きく上まわり、その認識を書き換える必要を生じせしめたものである。それは、弥生時代前期に於ける集落の生成から発展への過程、及び古墳時代への移行の様子を明らかにしただけでなく、生活や祭祀をうかがわせる資料をも提供した。その後の調査により、遺跡の範囲は和泉市のみでなく、泉大津市曾根町にまで伸びていることが判明した。

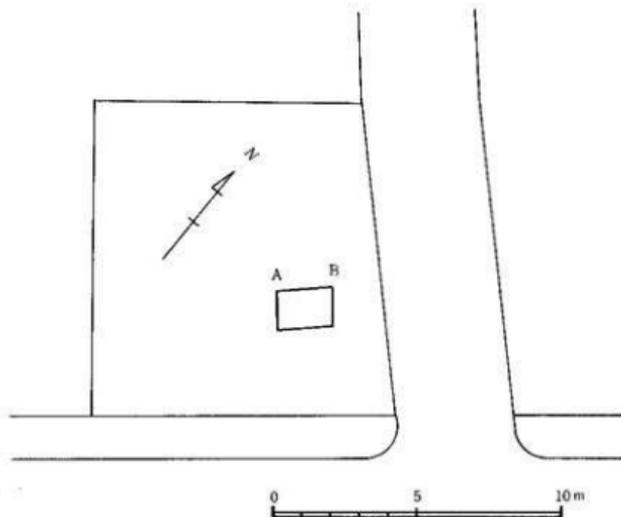
本遺跡は、その重要性から多数の人々の保存に対する熱意で、昭和51年4月26日、国の史跡に指定され、泉大津市・和泉市により、永久保存のため徐々に公有地化が進められ、有効利用へと計画がなされている。又、その周辺部に於ても、府教育委員会をはじめ、両市教育委員会に於て、発掘調査が実施され、遺跡の様子がより明らかにされつつある。

II 調査結果

第 1 地点 (千原町2丁目102-18 調査番号8806)

店舗付住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は107.965 m^2 である。

敷地内の南寄りに、幅1.4m、深さ1.8m、長さ1.6mの規模の調査坑を重機にて掘削し、その後人力で壁面を削り断面観察を中心とする調査を実施した。層序は上部より盛土約90cm、耕土約10cm、暗灰色粘砂土4~12cm、灰茶色粘砂土12~18cm、茶灰色粘質土約24cm、灰黄色粘質土約12cm、



第3図 池上・曾根遺跡 第1地点 掘削位置図

茶褐色粗砂混り粘質土12cm以上となる。

当該地は池上・曾根遺跡の中心より北側に位置し、南東部には今は埋め立てられているが溜池（畦田池）が存在した。この付近一帯は埋積谷にあたる部分である。調査の結果、遺構・遺物等は確認されなかった。写真撮影及び断面図を作成して、調査を終了した。

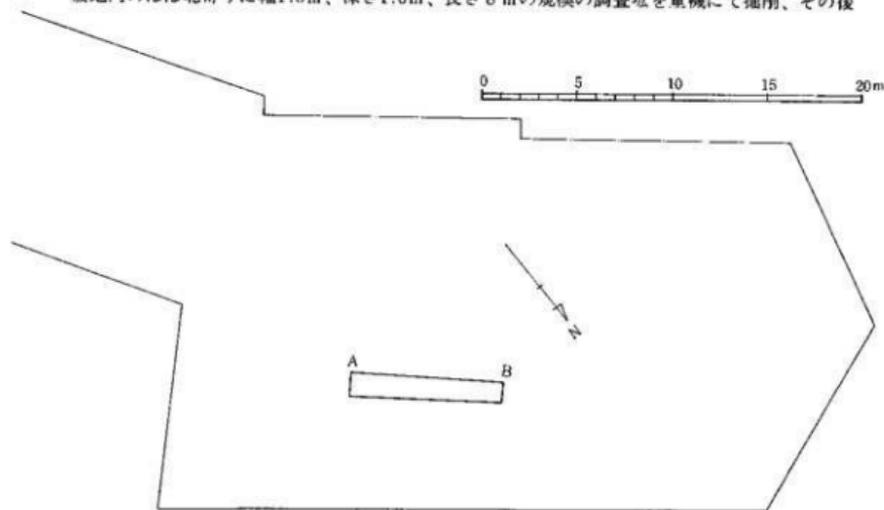


第4図 池上・曾根遺跡 第1地点 調査断面図

第2地点 (池岡町111-1、-7、-8の一部、407-5-6 調査番号8808)

共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は966.88㎡である。

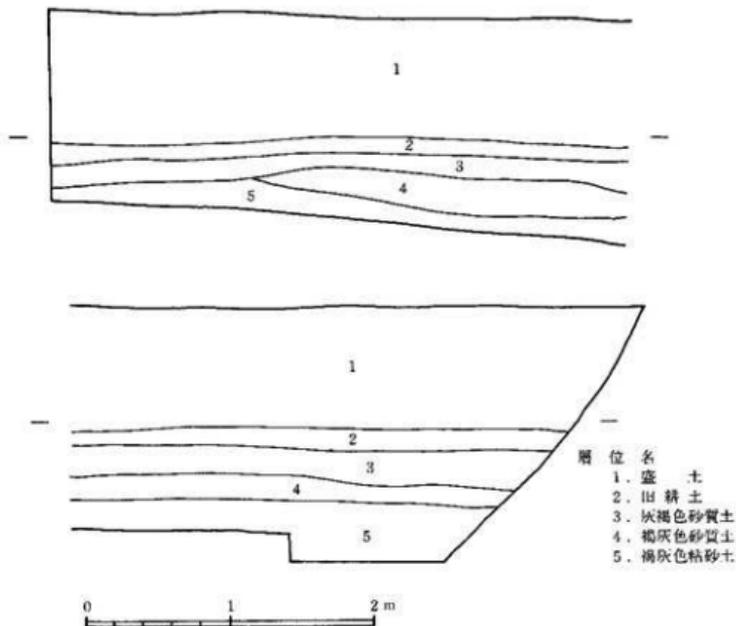
敷地内のほぼ北寄りに幅1.3m、深さ1.6m、長さ8mの規模の調査坑を重機にて掘削、その後



第5図 池上・曾根遺跡 第2地点 掘削位置図

人力にて壁面を削り断面観察を中心とする調査を実施した。層序は上部より盛土約90cm、耕土10～14cm、灰褐色砂質土8～30cm、褐灰色粘砂土約40cm、小砂礫となり、灰褐色砂質土と褐灰色粘砂土との間に褐灰色砂質土が最大厚約30cmで間層として存在する。

遺物は、褐灰色砂質土と褐灰色粘砂土に、須恵器・土師器・瓦器の小破片が含まれていた、二次堆積によるものと思われる。遺構は検出されなかった。写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第6図 池上・曾根遺跡 第2地点 調査塚断面図

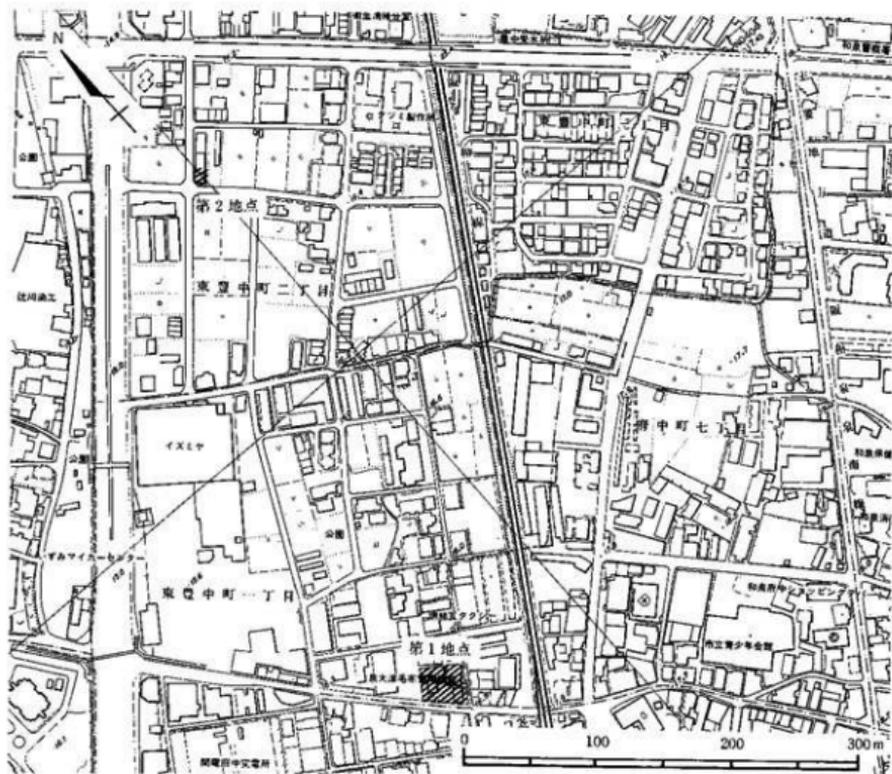
第2節 豊中遺跡

I 調査に至る経過

京大津市豊中・北豊中町及び東豊中町一帯に所在する豊中遺跡は、昭和30年代中頃に発見された遺跡である。本遺跡は、国道26号線及び土地区画整理事業の完成に伴い、土地の開発行為が増加し、現在までに市内で最も数多くの発掘調査が実施されている。その調査結果の概略は次のと

おりである。

まず縄文時代後期の土器片が、埋積谷に位置する旧河道砂礫層内より発見されており^③、上流部より流動されてきたものと思われる。この層内上部には、土師器や須恵器が含まれており、平安時代頃まで河川は存続していたものと考えられる。この部分は、土地区画整理事業が実施されるまで溜池であったが、それが築造されたのは、鎌倉時代かもしくはそれに近い時期と思われる。このほか、古墳時代の集落が確認されている。集落は、竪穴住居と掘立柱建物とで構成されており、数棟単位で1グループをなしている。このようなグループが数カ所あり、庄内式土器～有留式土器にかけての時期に属するものである。又、平安時代中頃の井戸や、鎌倉時代から室町時代に属する井戸等も検出され、大複合遺跡としてとらえられている。



第7図 豊中遺跡調査地点図

II 調査結果

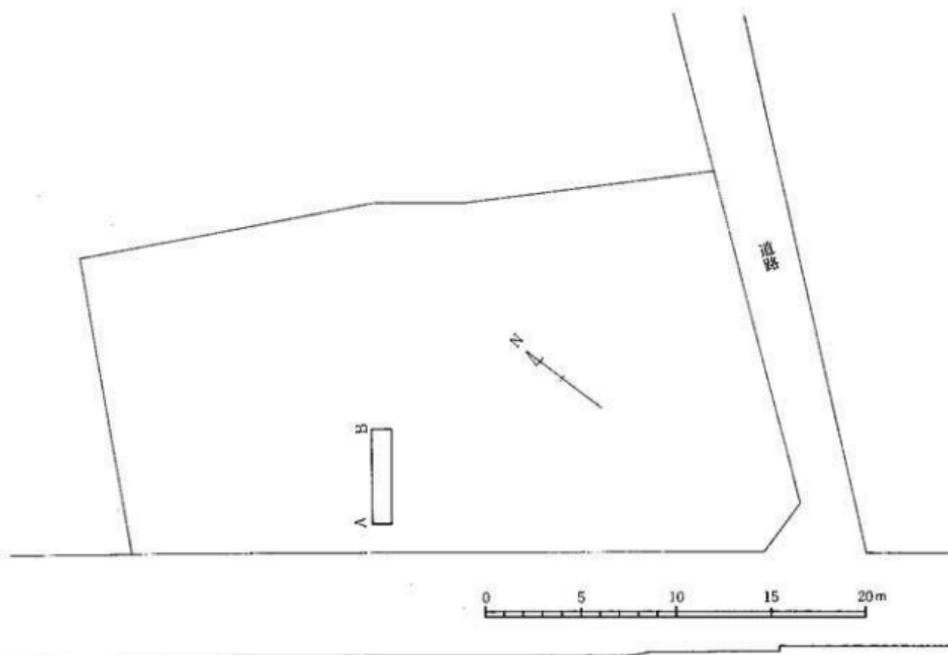
第 1 地点 (東豊中町 1 丁目 89-1、-2 調査番号 8803)

店舗付共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は334.75㎡である。

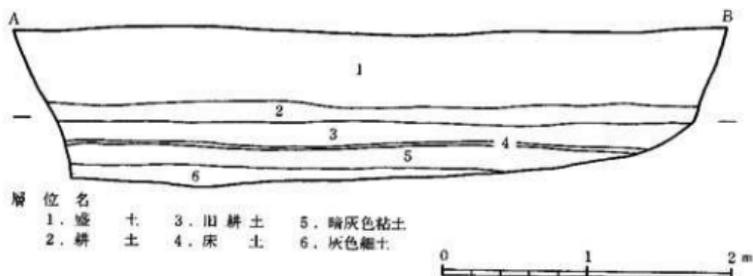
敷地内の西側に、幅1.0m、深さ0.8~1.0m、長さ5.0mの規模の調査堀を設定した。重機による掘削を行いその後人力で壁面を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。層序は上部より、盛土約55cm、耕土約10cm、旧耕土約20cm、床土約2cm、暗灰色粘土約15cm、灰色細砂6~15cmで灰色砂利となり、ほぼ水平な堆積状態を示す。

遺構は確認されなかったが、暗灰色粘土は遺物包含層で、須恵器・土師器の各破片が検出された。しかし、遺物の混入は希薄であり、二次的な堆積と考えられる。

写真撮影及び断面図を作成し、調査を終了した。



第 8 図 豊中遺跡 第 1 地点 掘削位置図

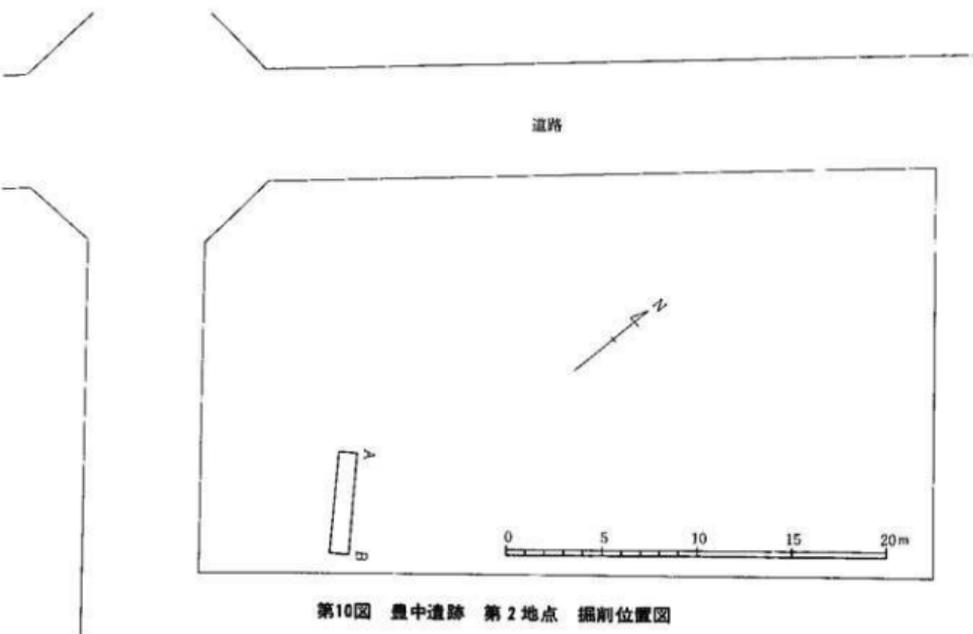


第9図 豊中遺跡 第1地点 調査坑断面図

第2地点 (東豊中町2丁目962-1、-2、-11、-12 調査番号8903)

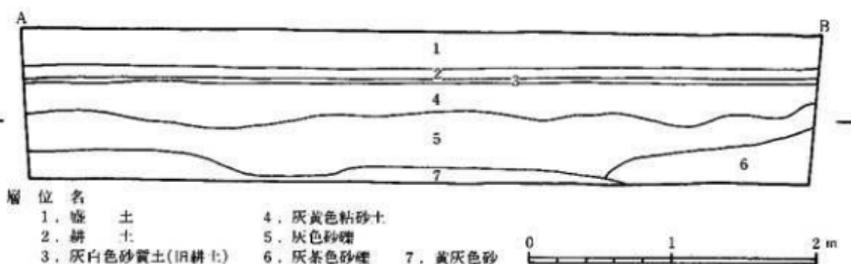
共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は812.39㎡である。

敷地面の南部分に幅1m、深さ1m、長さ5m60の規模の調査坑を重機にて掘削、その後人力にて壁面を削り断面観察を中心とする調査を実施した。層序は上部より、盛土約26cm、耕土約8



cm、灰白色砂質土（旧耕土）約3cm、灰黄色粘砂土20cm～30cm、灰色砂礫20cm～40cm、黄灰色砂となっている。灰色砂礫層は東隅で灰茶色に変色していた。

灰色砂礫層から土師器片が検出された。出土層から考えて二次堆積によるものと思われる。遺構は検出されなかった。付近の既往の調査とも考えあわせて、この付近には遺構は存在しないものと判断した。よって写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



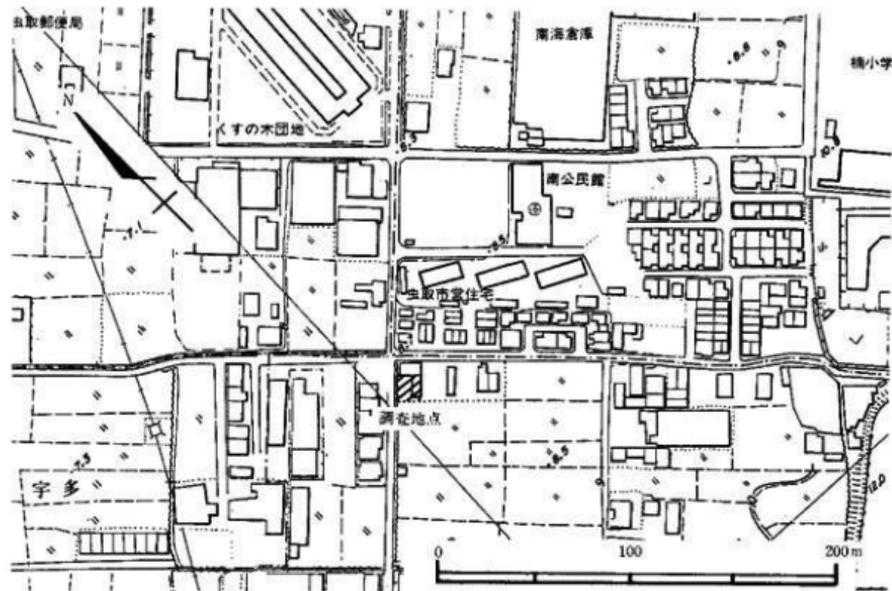
第11図 豊中遺跡 第2地点 調査城断面図

第3節 虫取遺跡

I 調査に至る経過

泉大津市虫取の市立南公民館を中心に半径約800mの範囲で、土師器片や須恵器片が散布しており、虫取遺跡として知られていた。この範囲内で、昭和53年に民間宅地開発が計画され、それに先立って発掘調査が、その費用を原因者負担で府教育委員会によって実施された。初めての本格的な調査によるメスが入れられたのである。その結果、縄文時代晩期の土器片をはじめ、弥生土器畿内第I様式新段階の土器を包含する土壇、6世紀後半及び10世紀後半の掘立柱建物跡等が発見され、弥生時代前期、古墳時代前期、平安時代中頃の集落が存在していたことを明らかにさせた。その後、昭和54年に、この遺跡内に所在する諸瀬池が、小学校（現楠小学校）建設のため埋め立てられることになった。池内の堤防沿いに須恵器片が多数散布していたので、市教育委員会で、池内の発掘調査を実施したのであるが、遺構は水の侵食や池底の改修等により削平されたようで残念ながら発見されなかった。昭和58年度には、学校用地となった旧諸瀬池の堤防をコンクリート擁壁にし、その一部を壊して市道が設けられることになったので、それらの工事先立って市教育委員会で発掘調査を実施した結果、人工と思われる溝が検出された。その溝内から縄文土器である滋賀型土器や長原式土器と共伴して、²⁹ 弥生土器畿内第I様式新段階の土器が出土

し、縄文時代と弥生時代の接点を明らかにする好資料が得られた。



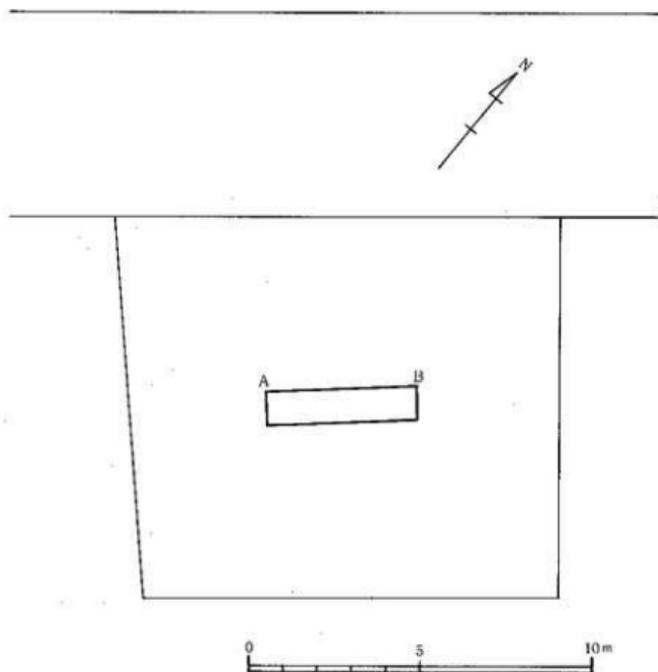
第12図 虫取遺跡調査地点図

II 調査結果 (宇多1051-4 調査番号8902)

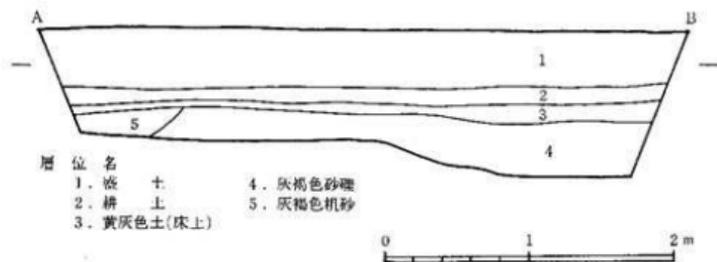
住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は138㎡である。

敷地内のほぼ中央に幅1m、深さ1m、長さ4m40の規模の調査坑を重機にて掘削、その後人力にて壁面を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。層序は上部より盛土約40cm、耕土約10cm、黄灰色土(床土)3cm~14cmとなり、その下は北東側で灰褐色砂礫40cm以上が見られ南西側では灰色粗砂となっている。

当該地は虫取遺跡の中心部よりやや西寄りに位置し、付近の田圃には土師器片・須恵器片が多数散布している為、何らかの遺構の存在が予想されたのであるが調査の結果、遺構・遺物等は検出されなかった。堆積土から判断して旧地形は谷部分にあたるものと思われ、既往の調査と考え合わせ、この付近には遺構は存在しないものと思われる。よって写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第13圖 虫取遺跡掘削位置圖

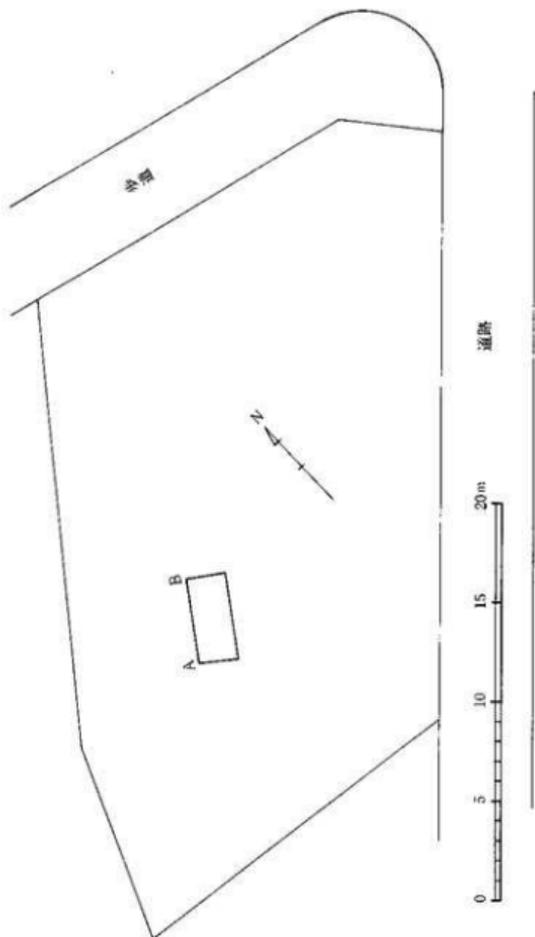


第14圖 虫取遺跡調查城断面圖

安・室町の各時代の掘立柱建物も検出されており、大複合遺跡として存在しているが、その成果から得られる資料は膨大なもので、あらためて驚かされるものがある。

II 調査結果 (綾井59-2 調査番号8805)

店舗付事務所建設に先立つ発掘調査である。敷地面積は611.26㎡である。

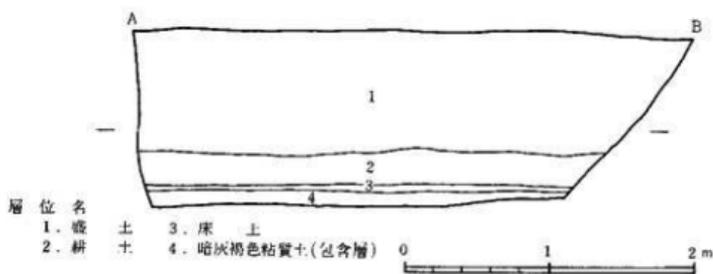


第16図 大複合遺跡掘削位置図

敷地中央の西寄りに、幅1.8～2.1m、深さ1.2m、長さ3.8mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面及び床面を削り断面観察と遺構検出を中心とする調査を実施した。層序は上部より、盛土80cm、耕土20cm、床土3～4cm、暗灰褐色粘質土8～10cmで黄灰色土に至る。

黄灰色土を遺構面としてピットが検出された。また暗灰褐色粘質土中より土師器・須恵器等の細片が出土した。

当該地は、大園遺跡のほぼ中央部にあたり、当初より遺構の存在が推定された。今回の調査によって現状での盛土層の厚さが明確にされた。この資料をもとに原因者と協議した結果、基礎掘削は包含層直上までに収まることになった。よって遺構面を保護するため遺構掘削は行わず、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。



第17図 大園遺跡調査坑断面図

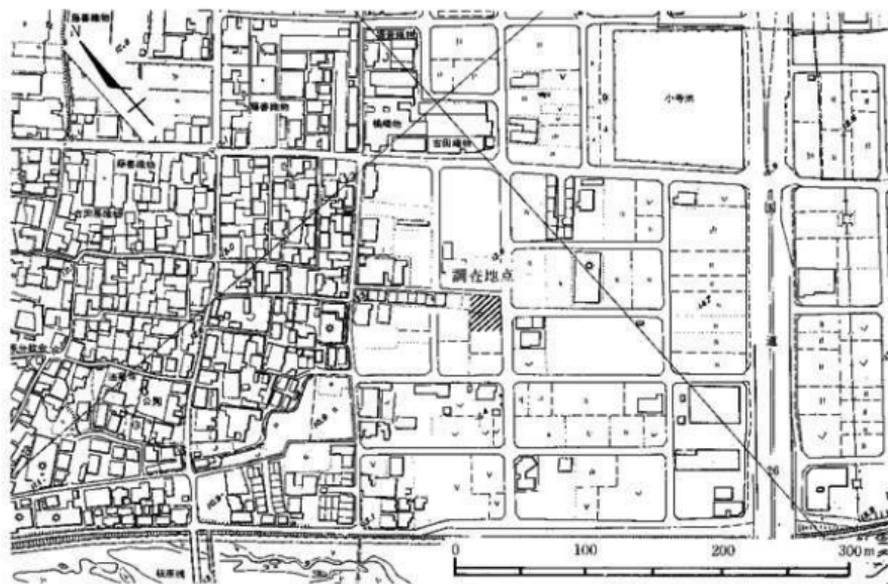
第5節 板原遺跡

I 調査に至る経過

泉大津市板原の水田地帯は、市の南部に位置し、南側は楨尾川・松尾川の氾濫原を隔てて忠岡町と、又、東側は和泉市肥子町と接している。昭和50年代の中頃までは、目立った道路もなく、条里制地行の跡を示す水田が存在するのみであった。この地域に於て上地区画整理がなされ、第2阪和国道（現国道26号線）が建設されたことにより、整然とした街路が縦横に走り、それに沿って新しく土地開発が行なわれつつある。これらの工事に先立ち道路部分に於て発掘調査が実施されたが、特に第2阪和国道部分に於ては、多くの成果を得ることができた。^⑤

昭和52年に、豊中・古池遺跡調査会の試掘調査により、第2阪和国道敷地内から縄文土器・須恵器・瓦器・磁器等の破片が出土し、特に縄文土器は炭も同時に発見され、各々の時代に属する

遺構の存在が予想された。それにより、昭和54年度に府教育委員会が国道部分を全面調査した結果、縄文時代後期の自然流路及び土器、晩期の溝状遺構、ピット等と土器が発見された。弥生時代の遺構は検出されなかったが、僅かながら遺物が出土している。古墳時代前期の遺構や井戸、平安時代の建物のほか、鎌倉時代には、小規模な建物群が存在するなど、中世にまで及ぶ複合遺跡であることが判明した。以後ほぼ毎年工事に先立つ調査を実施しているが、きわだった成果はあがっていない。今後の調査に期待される。



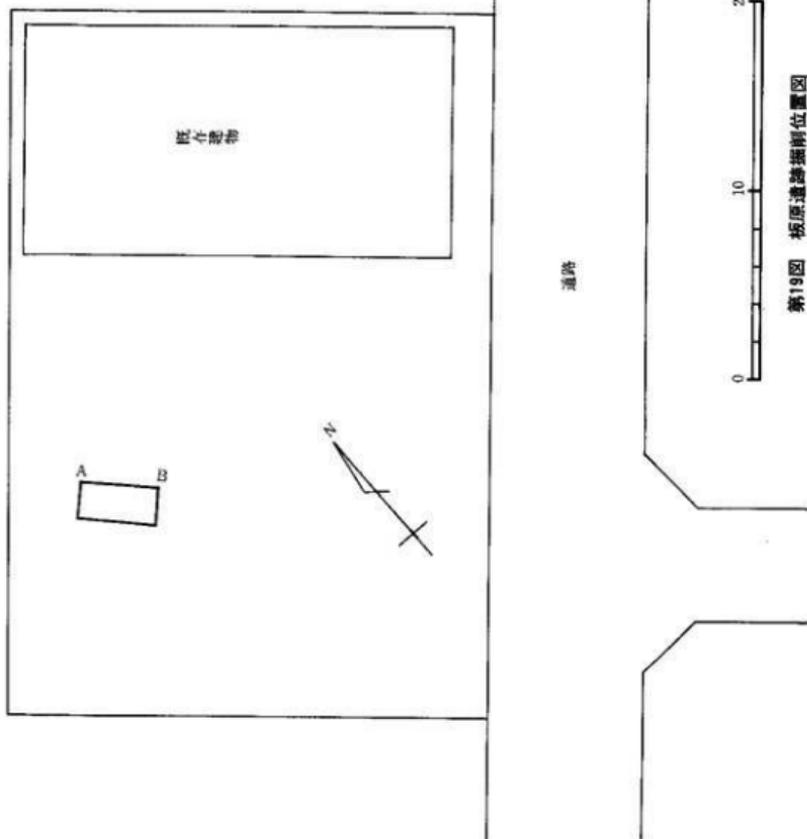
第18図 板原遺跡調査地点図

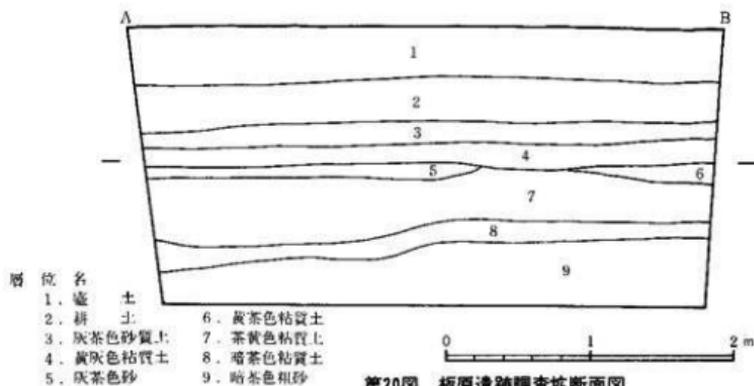
II 調査結果 (板原1132、1133 調査番号8901)

倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は930㎡である。

敷地内の北西寄りに幅2m、深さ2m、長さ4mの規模の調査坑を重機にて掘削、その後人力にて壁面を削り断面観察を中心とする調査を実施した。層序は上部より盛土約50cm、耕土約30cm、灰茶色砂質土10~16cm、黄灰色粘質土10~16cmでその下に北西側で灰茶色砂約8cm、南東側で黄茶色粘質土約14cmが茶黄色粘質土24~46cmとの間に見られ、更には下に暗茶色粘質土約14cm、暗茶色粗砂46cm以上となる。

遺物は灰茶色砂質土より土師器・瓦器の細片が検出されたが、図示しえない。遺構は確認できなかったので、写真撮影及び断面実測図を作成して調査は終了した。当該地は板原遺跡の南西部にあたり、大津川右岸の段丘縁辺部に位置する部分で付近の既往の調査でも遺構は確認されていない。





第6節 池浦遺跡

I 調査に至る経過

弥生時代前期中段階に始まる、市内でも最も古い弥生時代集落として、池浦遺跡は知られてい

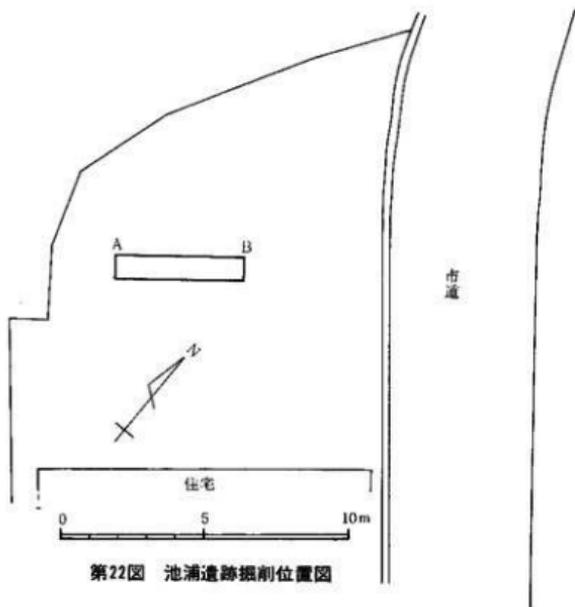


⑤。しかしその存続期間は短かく、前期の段階で衰退してしまうようである。集落の規模もさほど大きくはなく、現在の泉大津市立病院東側から東へ500mの範囲にかけてのみ、その時期の遺構・遺物が検出される。だが人々が生活を営んだ住居の跡は、今のところ発見されておらず、集落を画すると思われる小規模な人工のV字溝及び、断定はできないが、柱穴と思われるピットが発見されているのみである。その次の時期の遺物は古墳時代に属するもので、既往の調査によると、砂利層や低湿地から須恵器片が多数出土している。又付近の水田には、須恵器や土師器の破片が散布し、その範囲は凡そ800m×400mと広範囲にわたる。

II 調査結果 (池浦町4丁目217-5 調査番号8807)

事務所付住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は145㎡である。

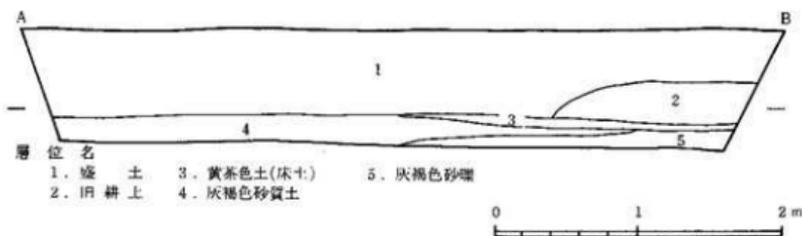
敷地内のほぼ中央に幅80cm、深さ90cm、長さ5.3mの規模の調査坑を重機にて掘削、その後人力にて壁面を削り断面観察を中心とする調査を実施した。層序は上部より盛土40~60cmがあり、東側には耕土約30cmが見られ、その下には黄茶色土約10cmが存在する。更に下は西側で灰褐色砂質土が15cm以上堆積しているが東側へ行くにしたがって薄くなり、それにかわって灰褐色砂礫層が



第22図 池浦遺跡掘削位置図

みられるようになる。

当該地は池浦遺跡の東部にあたり、遺構の稀薄な部分である。工事の基礎掘削の深度まで掘削して遺構・遺物等は確認されなかったため、写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第23図 池浦遺跡調査坑断面図

第7節 穴師遺跡

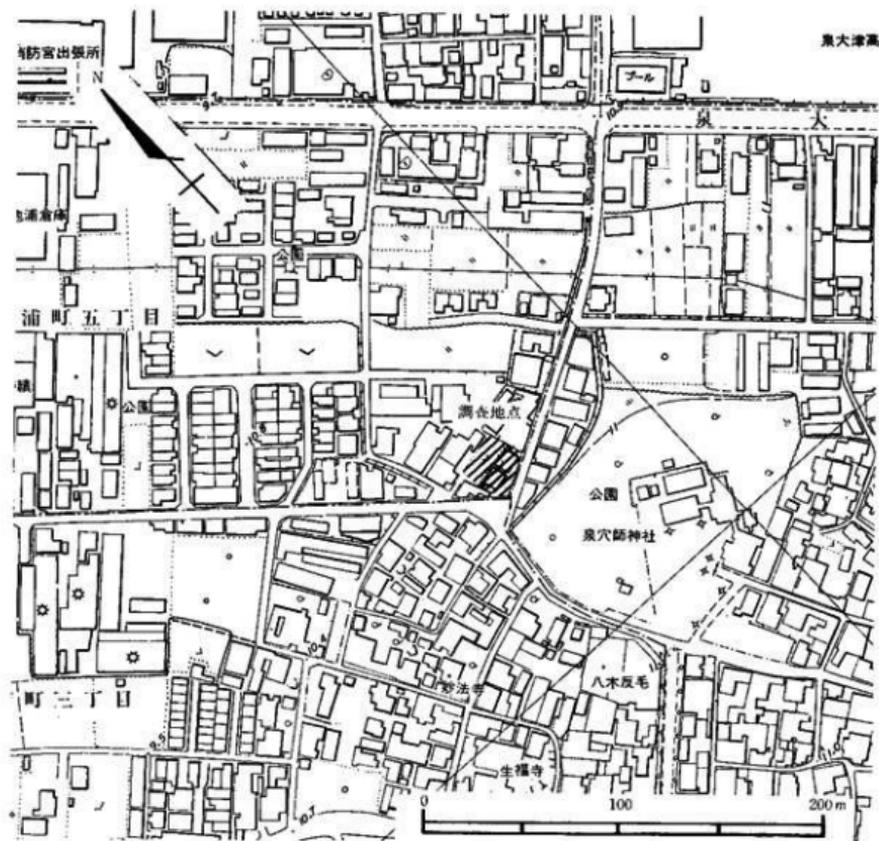
I 調査に至る経過

穴師遺跡は、泉穴師神社を中心に直径約200mの範囲の遺跡である。神社境内にある豊中公園や、付近の水田には土師器片・須恵器片・瓦器片等が散布しているため、周知の遺跡とされている。しかし、具体的なことは何一つ知られておらず、その実態は不明である。

泉穴師神社は、白鳳元年(672年)の創建とされ、和泉五社の第二社で延喜式内社に列し、古くから人々の崇敬を集めている。本殿及び摂社二社の本殿は国の重要文化財に指定されている。

以上のことから周辺部は古くから開けていたことは明らかであり、発見遺物から古墳時代以降の集落が存在していたものと思われる。

今回この遺跡の西部において住宅建設が計画され、これに先立ち予備調査を実施したものである。調査方法としてトレンチ掘りでは面的な追求は無理なので、グリッド掘りとした。



第24図 穴師遺跡調査地点図

II 調査結果 (池浦町5丁目447、448-1 調査番号AN-1)

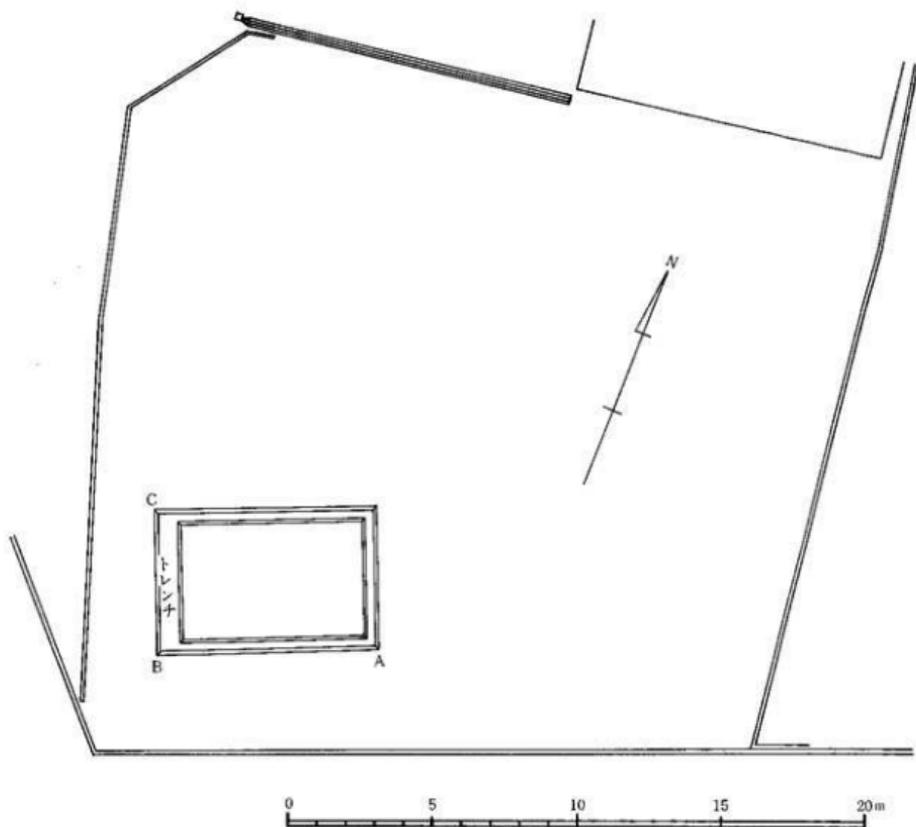
共同住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は572.98㎡である。

敷地内の南東に8m×5mの規模の調査坑を設定し、重機にて盛土を除去する。その後人力により掘削を実施する。

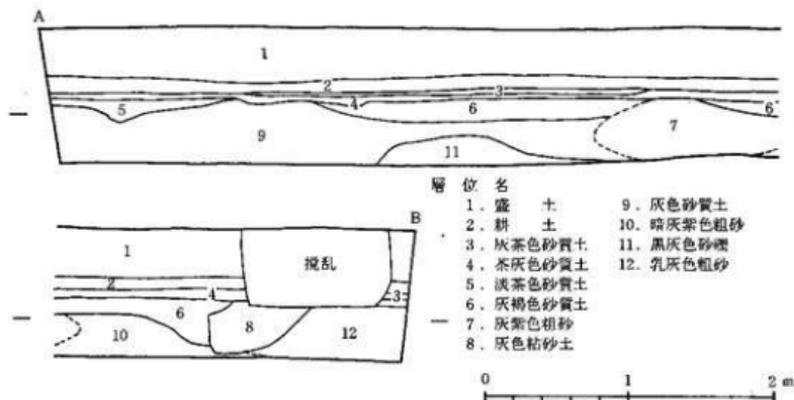
耕土を除去すると全体に砂質土が見られた。遺構の存在は考えられなかったので各辺壁際にトレンチを表土より約1mの深さまで掘削したところ、図示(第26・27図)するような砂層・礫層等が

堆積していた。遺物は発見されなかったので、この地点には遺構・遺物ともに存在しないものと考えられる。南東に隣接する泉穴師神社では、以前には湧水点があって絶えず水が湧き出していたとのこと。今回の調査で見られた砂礫層が地下水脈にあたるものと思われる。

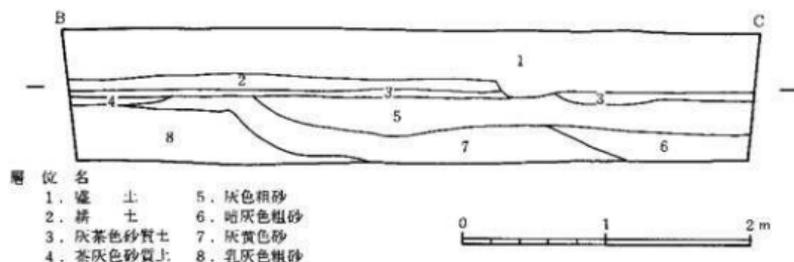
以上のような結果であったので、四周壁の写真撮影及び、西壁と南壁の断面図を作成して、調査は終了とした。



第25図 穴師遺跡掘削位置図



第26図 穴師遺跡調査城南壁断面図



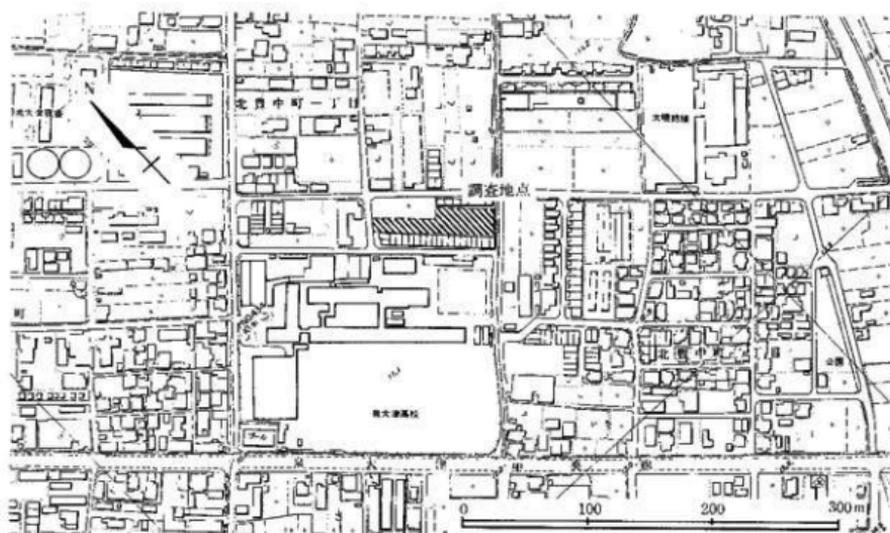
第27図 穴師遺跡調査城西壁断面図

第8節 七ノ坪遺跡

I 調査に至る経過

七ノ坪遺跡は、北豊中町一帯に所在する弥生時代から古墳時代・中世に属する遺跡である。昭和32年の冬、府立泉大津高等学校北門前の水田、通称「七ノ坪」において地下げ工事が行われた。その際、同校地歴部員によって土師器片が採集されたのを契機として、「七ノ坪遺跡」と名付けられた^①。昭和43年以来同校校舎の増改築工事に先立ち、府教育委員会の実施した発掘調査や、同校地歴部による試掘調査、又、周辺部における府・市教委の調査で、弥生時代後期の溝・水田跡、古墳時代初期の溝・水田跡の他に4世紀前半の土城、4世紀後半の住居跡・方形周溝墓、5世紀

前半の住居跡・木棺直葬墓・墓塚、中世の土壇・溝等が発見され、複合遺跡であることが知られている。今回報告するのは前年度に実施した調査で、前回報告できなかったものである。



第28図 七ノ坪遺跡調査地点図

II 調査結果 (北豊中町1丁目495-1、496-1 調査番号H I - 8)

共同住宅建設に先立つ調査である。敷地面積は、1,583.93㎡である。

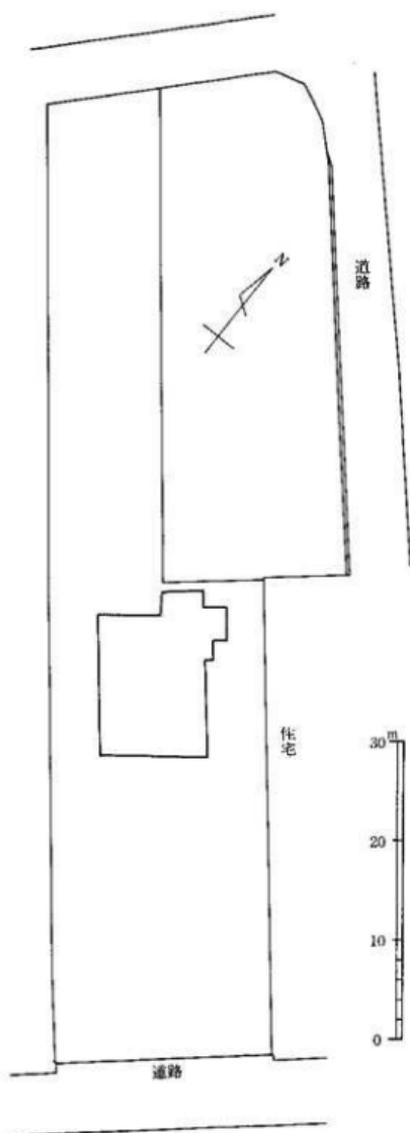
敷地内の建物配置部分を縦断するように幅80cmほどの浅い試掘を行い、その結果包含層、遺構面の認められた部分を中心に11×14mの規模の調査坑を設定した。その後、遺構の検出に伴い、一部拡張した。

調査は、まず重機により表土(耕土)、床土までを除去した後、人力によって以下の層を順に掘削、検出を行っていった。なお調査期間は、昭和62年12月23日より翌63年1月21日までであった。

当該地は、ほぼ水平な耕作地であり特に周辺にくらべ水はけがよいことから畑地とされていた。基本層序は、上部より表土(耕土)20~30cm、床土3~4cmで調査坑西側では、褐色~黄色土の包含層をはさんで遺構面(河川状堆積)へ至り、同東側では、砂礫層(地山)となる。

検出された遺構は、大きな河川状の遺構(堆積)の他は、若干のビット状の遺構がみられたが、残存等も悪く、ほとんど確定しえなかった。

また出土遺物は、総量コンテナに約7箱分出土した。ほとんどが土師器であり、大部分が河川状遺構内出土のものである。遺物の残存状態は必ずしも良好とはいえず取り上げ後、復元不可能となったものも多い。

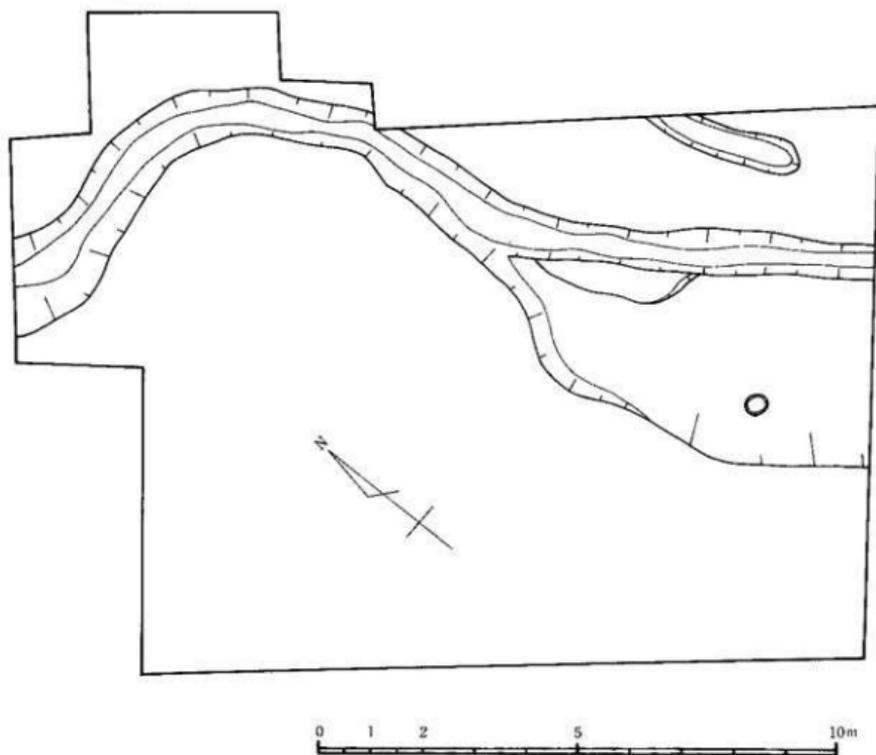


第29図 七ノ坪遺跡掘削位置図

遺 構

河川状遺構 調査区内を北から南方向に惰行して流れる自然流路で、幅0.7~2.0m、深さ0.1~0.45mをはかり断面形は、ゆるいV字型を呈する。埋土状況はまず上層から中層までが細砂と粘土層が互層となって堆積しており下層では、粗砂と粘土層に変わり遺物の残存も良くなる。

大きくは調査区の西側3分の1ほどが流路堆積となっており検出された部分はその最終段階の時期のものであろう。ただし出土遺物から時期的に大きなへだたりはないようである。



第30図 七ノ坪遺跡遺構図

第9節 東雲遺跡

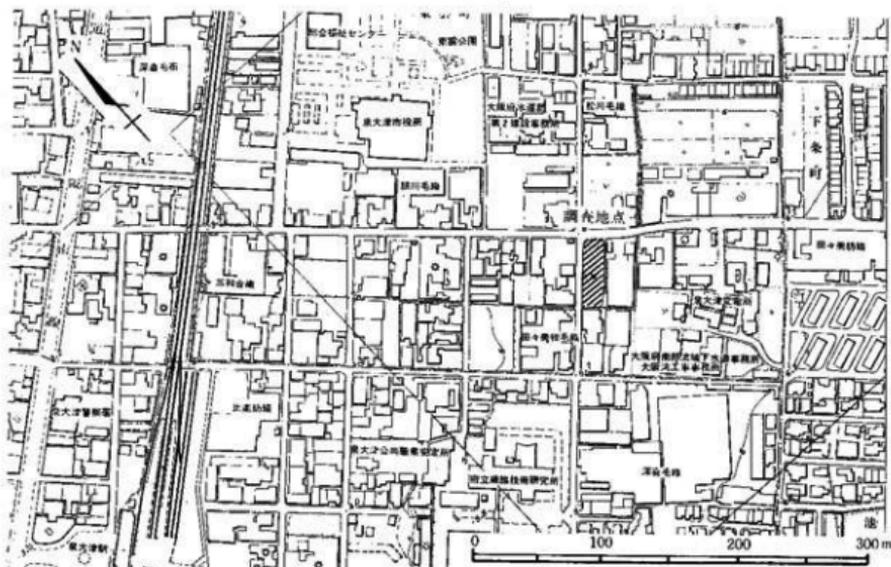
I 調査に至る経過

昭和52年、東雲町地番で、大阪府南部流域下水道・南大阪湾岸工区事務所の建設工事着工直後、水田の耕土除去した段階で、市民より付近において以前工事中多量の土器が出土していることから、調査の必要があるのではないかと指摘があった。府・市両教育委員会は府下水道事業所と協議の結果、事前に発掘調査を実施することになり、豊中・古池遺跡調査会が調査を行った^③。これが東雲遺跡発見の発端である。

この調査で、古墳時代前期の竪穴住居址2軒、井戸2基、溝2条が発見された。又、中世の掘立柱建物16棟が検出され、主軸方向から4期に分けられると推定される。

続く^④の調査は昭和61年に実施されたもので上記の場所の東隣りの部分である。この調査では、掘立柱建物1棟の外、多数のピットが検出されたが、中世遺物は1点も出土していない。掘立柱建物の建築時期に疑問を残す結果となっている。

本遺跡は市内でも最も海岸寄りになる集落遺跡で、付近は宅地化が進んでいるため、調査を実施する機会はあまりなく、実態の把握難しい遺跡である。



第31図 東雲遺跡調査地点図

II 調査結果 (東雲町76-1、-3 調査番号8804)

事務所建設に先立つ調査である。敷地面積は、899.17㎡である。

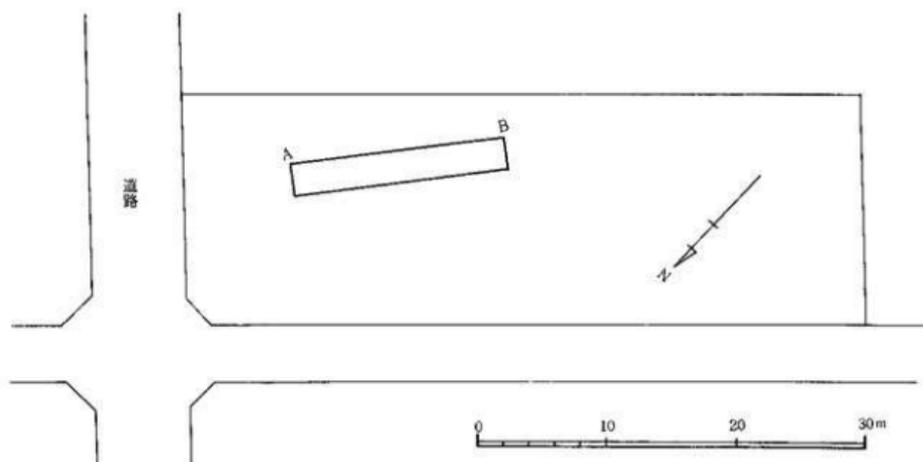
敷地のほぼ中央に、幅1.0m、深さ0.6m、長さ17mの規模の調査坑を設定し、重機による掘削の後、人力により壁面等を削り、断面観察を中心とする調査を実施した。

層序は上部より、耕土約20cm、床土2cm、灰黄色土15cm、黄色土2cmで、以下北部では暗灰色粘砂15cmをへて灰色砂礫へ、南部では、黄茶色土10cmをへて灰色砂礫へ至る。

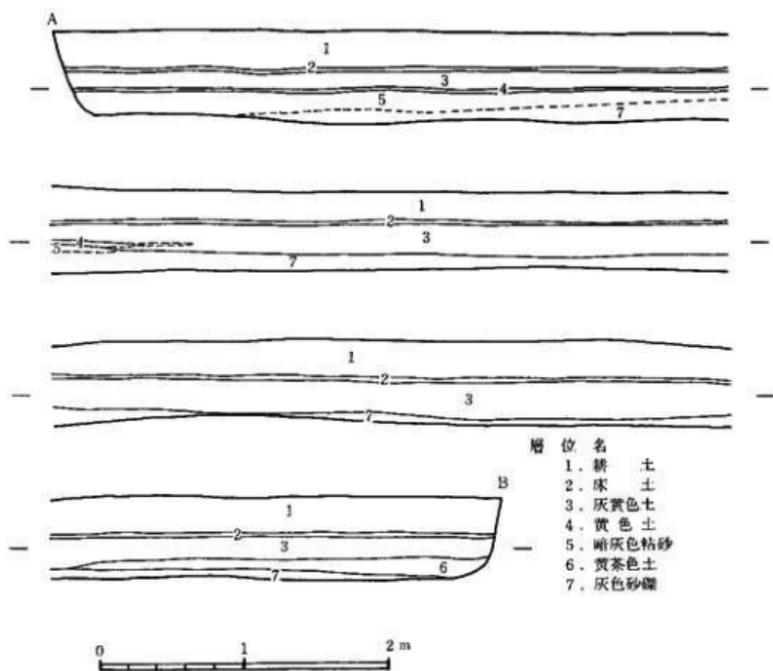
遺物は、灰黄色土より若干出土した。土師器片・瓦器碗などが認められた。

遺構面は確認できず、遺物の混入も希薄であるため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。

なおこの工事に伴い周囲の道路において水道・ガス等の立会調査も実施したがいずれも地表下60~70cmで砂礫層となり湧水がみられた。



第32図 東雲遺跡掘削位置図

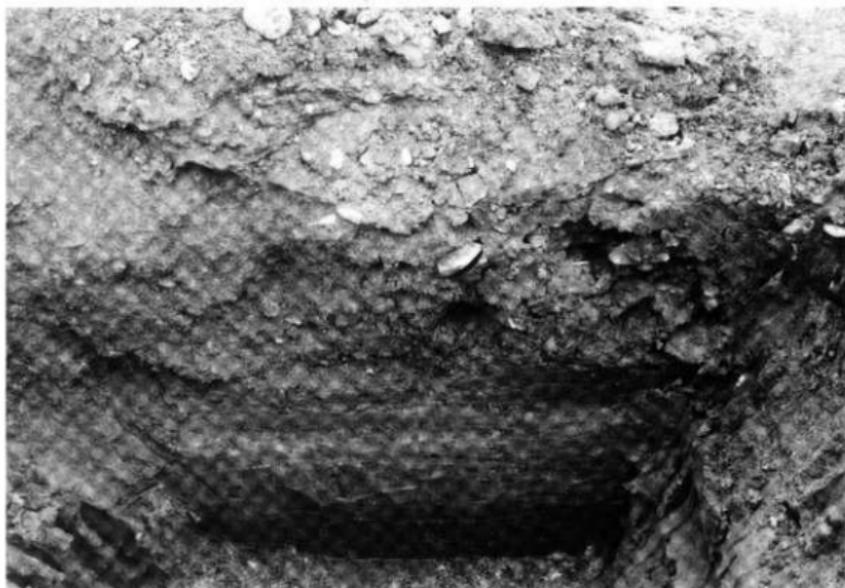


第33圖 東雲遺跡調查地断面圖

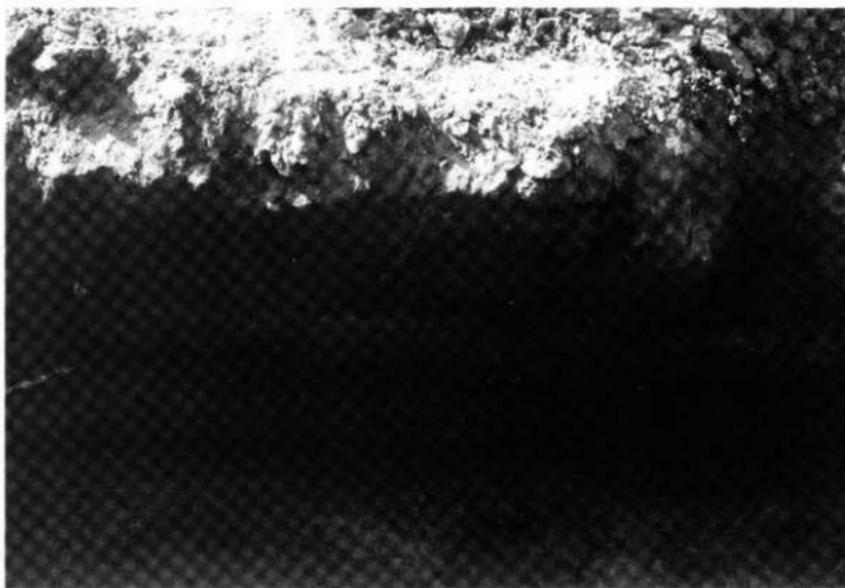
参 考 文 献

- ① 高石市教育委員会 『大園遺跡発掘調査概要』 1976・3
- ② 和泉市史編纂委員会 『和泉市史』第一巻 1965・10
- ③ 和気遺跡調査会 『和気』 1979・3
- ④ 大阪府教育委員会 『第二版和国道内遺跡発掘調査概報—板原遺跡—』 1980・3
- ⑤ 豊中・古池遺跡調査会 『豊中・古池遺跡発掘調査概要 そのⅢ』 1976・3
- ⑥ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報2』 1984・3
- ⑦ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報3』 1985・3
- ⑧ 泉大津高校地歴部 『和泉の古代遺跡』 和泉考古学第5号 1961・3
- ⑨ 大阪府「弥生文化と農耕」 『大阪府史』第一巻 1983・3
- ⑩ 調査時点では要池遺跡であったが、古池遺跡となり、現在は豊中遺跡として遺跡分布図に記載されている。
- ⑪ 大阪府教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要』 1974・3
- ⑫ 大阪府教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要Ⅲ』 1984・3
- ⑬ 泉大津市教育委員会 『豊中遺跡発掘調査概要Ⅲ』 1979・3
- ⑭ 大阪府教育委員会 『要池遺跡発掘調査概要Ⅰ』 1975・3
- ⑮ ④に同じ
- ⑯ ⑤・⑩に同じ
- ⑰ ②・⑧に同じ
- ⑱ ⑥に同じ
- ⑲ ⑧に同じ
- ⑳ ⑤に同じ
- ㉑ ⑩に同じ
- ㉒ ⑦に同じ
- ㉓ 大阪府教育委員会 『大園遺跡・豊中遺跡範囲確認調査概要』 1974・3
- ㉔ 高石市教育委員会 『大園遺跡発掘調査概要』 1977・3
- ㉕ ①に同じ
- ㉖ 大阪府教育委員会 『泉大津市池浦遺跡発掘調査概要』 『飾・香・仙』 1972・12
- ㉗ ⑧に同じ
- ㉘ ⑩に同じ
- ㉙ 泉大津市教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要Ⅱ』 1982・3
- ㉚ 豊中・古池遺跡調査会 『東雲遺跡発掘調査報告書』 1977・12
- ㉛ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報5』 1987・3

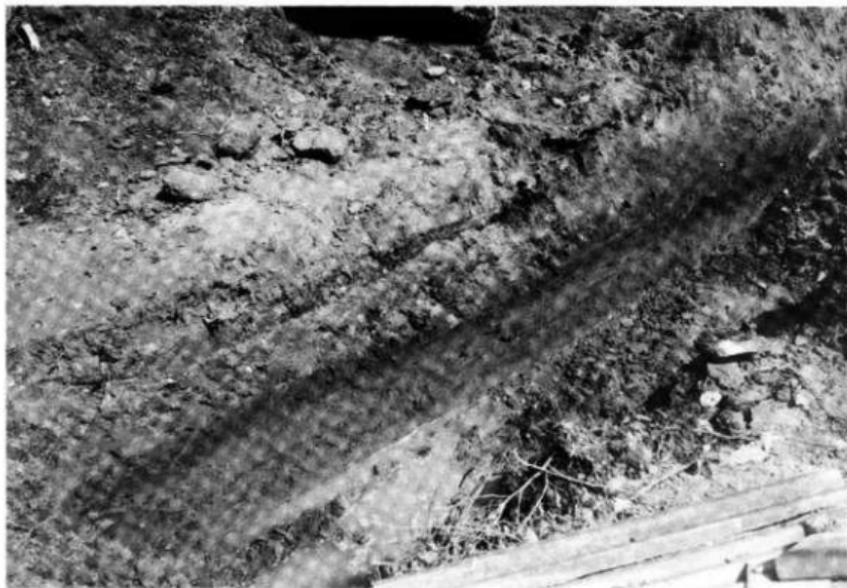
圖 版



池上・曾根遺跡第1地点調査坑断面



池上・曾根遺跡第2地点調査坑断面



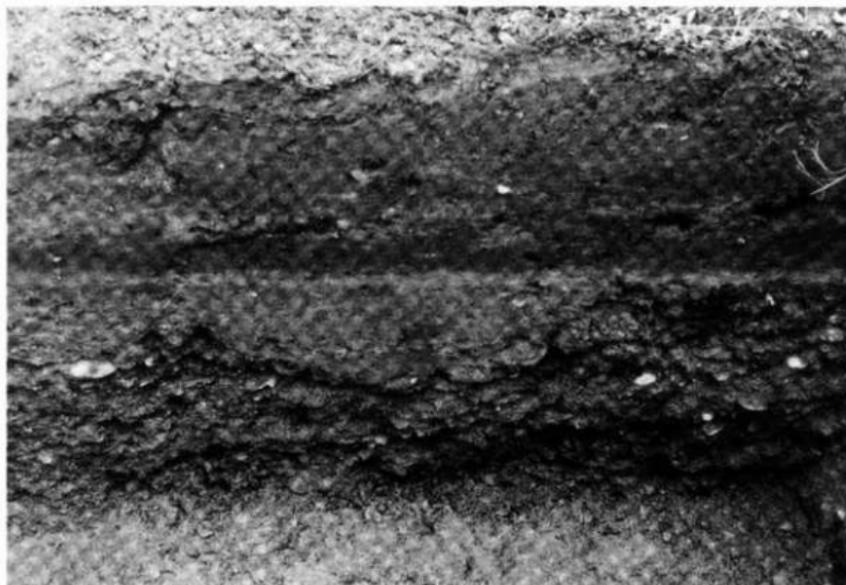
豊中遺跡第1地点調査坑



豊中遺跡第1地点調査坑断面



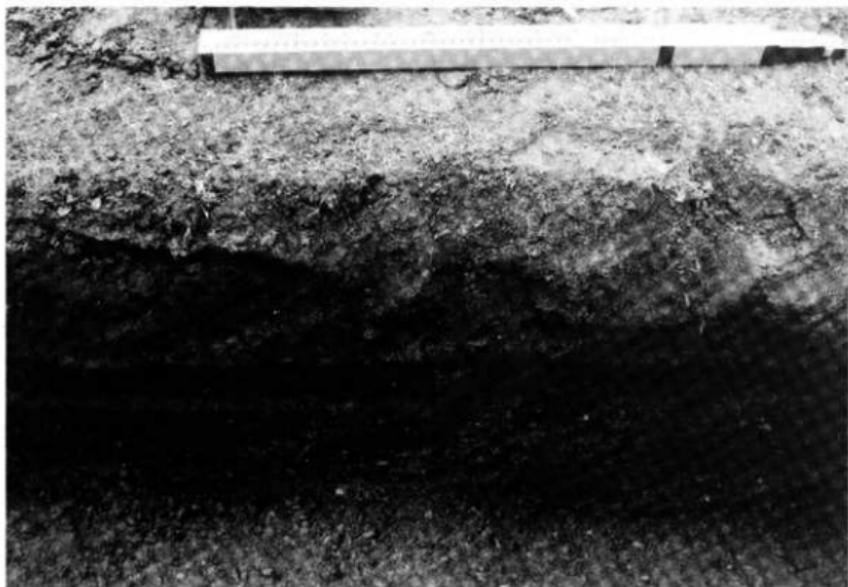
豊中遺跡第2地点調査坑



豊中遺跡第2地点調査坑断面



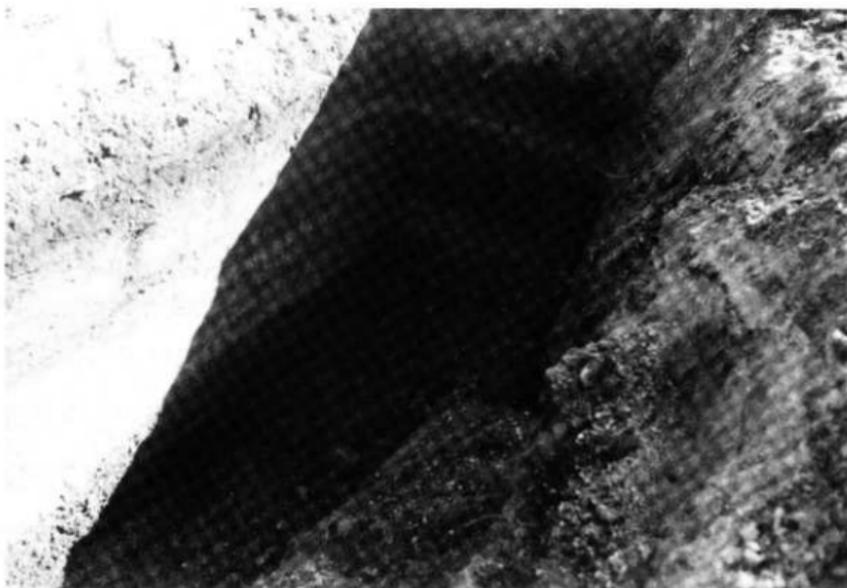
虫取遺跡調査坑



虫取遺跡調査坑断面



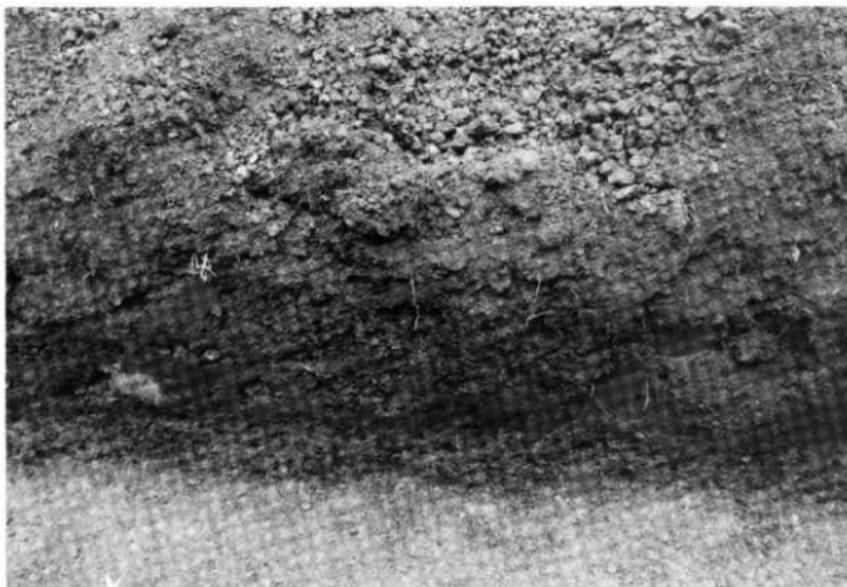
板原遺跡調査址



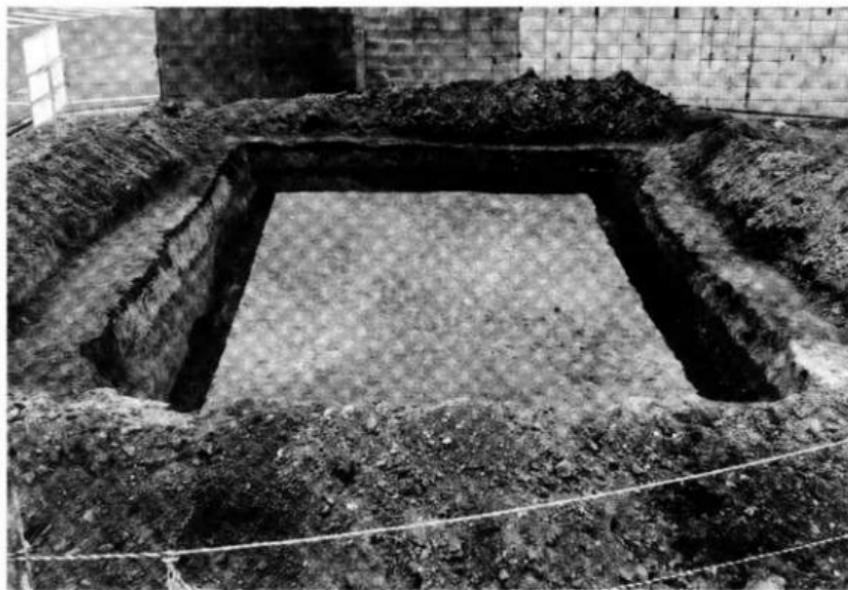
板原遺跡・調査坑断面



池浦遺跡調査址



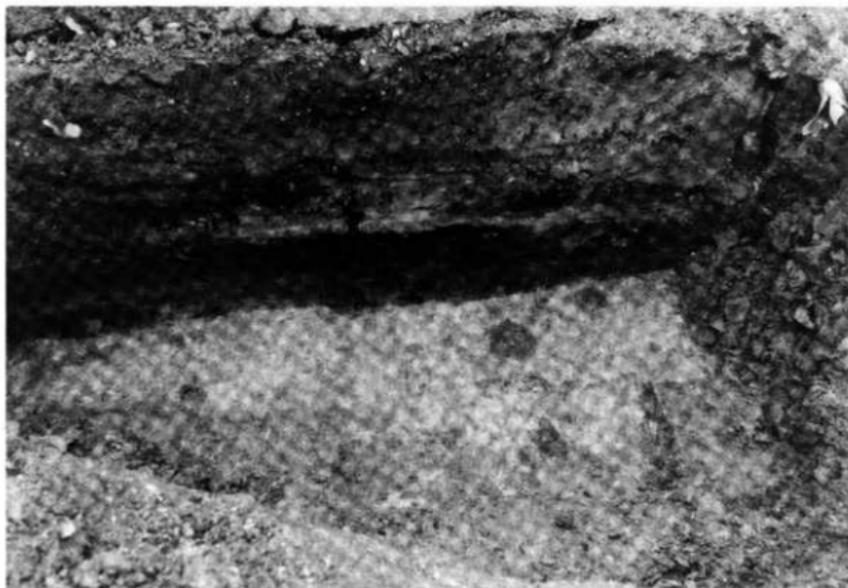
池浦遺跡調査址断面



穴師遺跡調査坑



穴師遺跡調査坑南壁



大園遺跡調査址



七ノ坪遺跡調査全景



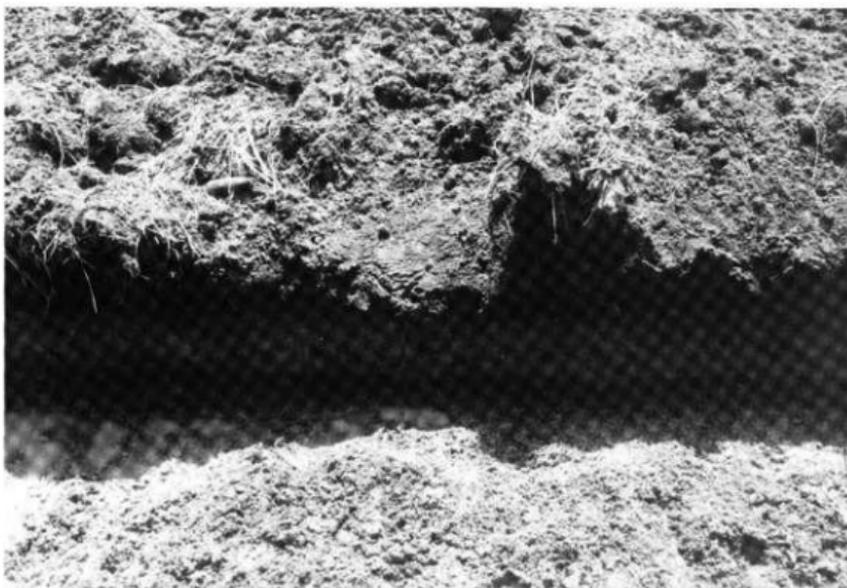
七ノ坪遺跡遺構・遺物



七ノ坪遺跡遺構・遺物



東雲遺跡調査址



東雲遺跡調査址断面

泉大津市文化財調査報告18
泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報7

1989年3月

発行	泉大津市教育委員会
編集	社会教育課
	泉大津市東露町9番12号
印刷	和泉出版印刷株式会社
	和泉市池上町460-33

